

令和7年度 学校評価最終報告

1 達成目標及び検証

教職員アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの各項目で、肯定的な回答（1+2）の合計85%以上を目指す

2 回答の選択項目

	教職員	保護者	生徒
1	よく当てはまる	よく当てはまる	当てはまる
2	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる
3	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない
4	ほとんど当てはまらない	ほとんど当てはまらない	当てはまらない

3 評価基準

肯定的な回答（1+2）の割合による評価の基準

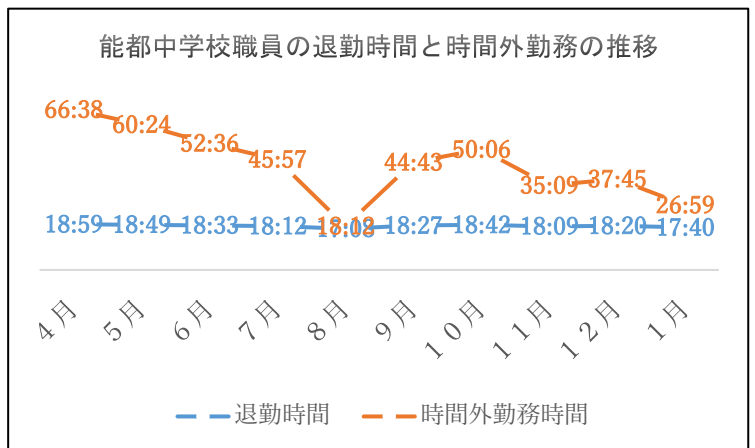
- A：85%以上～100%（継続）
- B：70%以上～85%未満（継続・改善）
- C：50%以上～70%未満（要改善）
- D：50%未満（至急対策検討）

(1) 生徒指導の充実		具体的な取り組み					
①自他共に尊重できる態度の育成 ・生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。		積極的な声かけ・個々の生徒の様子を把握・いいとこみつけの活用・言葉遣いに注意を払い言語環境を整える(教師・生徒) 業務効率化の推進 →ワークライフバランスの向上、子どもと向き合う時間の確保					
②道徳教育の育成 ・道徳の時間を年間指導計画に沿って適切に実施する。 ・ボランティア活動や清掃活動の実施。							
質問内容		R7最終		R7中間		R6最終	
教職員	① 学校教育目標を達成するための教育活動を実践している。	A	100.0%	A	100.0%	A	100.0%
	② 学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	A	100.0%	A	100.0%	A	100.0%
	③ 生徒の様子の小さな変化にも気付くように意識している。	A	100.0%	A	100.0%	A	100.0%
	④ 各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	A	85.7%	A	100.0%	A	91.6%
	⑩ 学校生活の中で言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整えている。	A	92.8%	A	92.3%	A	100.0%
	⑪ 日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	B	72.4%	C	69.2%	A	92.3%
生徒	B1 自分にはよいところがあると思う。	B	76.7%	B	78.9%	B	79.8%
	B2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	B	84.5%	B	84.4%	B	86.5%
	B3 学校へ行くのは楽しいと思う。	B	77.6%	B	76.1%	B	79.7%
	B4 いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	A	95.1%	A	91.7%	A	94.3%
保護者	① お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	B	81.8%	B	81.9%	A	87.2%
	③ 学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	C	56.0%	C	67.5%	A	89.3%
	⑤ 教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	C	68.2%	B	74.7%	B	82.9%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)						

【考察・改善】

教職員アンケート①～④、⑩の結果より、教職員は年間を通して教育目標達成に向けた取組を意識している。また、生徒の小さな変化にも気にかけている職員が多いことから、個々の生徒への関わりや生徒指導に対する職員の意識は高い。また、2学期から様々な場面で、人間関係づくりを取り入れ、3学期からは、毎週月曜日の朝を「能都中わくわくトーク」とし、少人数グループで身近なテーマについて話し合う活動を行っている。そうした活動を日常的に取り入れることで、生徒たちが適切に自己開示をするとともに、相手を尊重していくことの大切さを学び、人間関係を深めていくことを期待している。今後は、活動を工夫しながら継続させていくことで、生徒同士および生徒と教員の関係性をより強化していくことが求められる。

教員アンケート⑪については、右のグラフから4月、5月と時間外勤務時間が月平均60時間越えとなっていた。しかし、少しずつ削減に向かい、11月からは、月80時間を越えの職員数は0となった。これは、管理職が時間意識して声かけを行ったこと、職員自身が「区切りの時間を決めて帰る」意識を持つようになったことが改善の理由として挙げられる。また、年間を通して予定されている学校行事や校務分掌において、教務主任が各担当



へ早めに声かけを行うことで、見通しをもって業務に対応できるようになったこと、適宜声かけを行うことで、担当の困り感を把握し、早めに相談や助言できるようになったことも大きい。

生徒アンケート B1～B4に関しては、ほぼ横ばいとなっている。教員アンケート③より職員は生徒の小さな変化にも気づこうとしている職員が多い。その見取った変化を生徒に伝えていくことで、生徒－職員間の関係作りにもつなげ、また、生徒自身が自分のよさに気づいたり自覚したりできる機会としていく。

保護者アンケート③・⑤では、どちらも「生徒理解」「安心・安全」「信頼関係」に関わり、評価が下がってきているという現状について深刻に捉えている。原因として、学校と保護者の認識にずれが生じている可能性や、学校の取り組みが十分に伝わっていないことが挙げられる。改善としてまず、学校だよりや定期的な学級便り、学校ホームページにて学校の取組や生徒の活動を伝えていくことが重要であると考えている。ホームページの更新については、管理職のみでなく、各学年の情報担当がそれぞれの学年の活動を更新していくことで、少しずつ改善が見られている。

また、1月14日に保護者会を開催した。その中でいただいたご意見を参考に、来年度は学期に1回の授業参観と、学級懇談を実施することを計画している。保護者の方に生徒たちの様子を直接みていただく機会や、直接担任から学校での様子を聞く機会を持つことで、学校と保護者の認識のずれを改善し、同じ方向、同じ思いで子どもたちの育成を図っていくことを目指したい。

また、年2回のQUアンケートの結果についてもさらなる活用を図っていく。結果は、各担任に配付されるが、結果分析を全体で共有することで、視覚化された個々の生徒の状況をもとに、今以上に生徒に寄り添い支援していくことが可能になると考えられる。また、生徒一人ひとりの変化にこれまで以上に気付きやすくなり、いじめや問題行動の未然防止・早期発見につながると共に、生徒理解に基づいた適切な指導や支援が可能となり、保護者の方々からの信頼回復にもつながっていくと考える。

(いじめ認知件数 10→12→11件、不登校生徒数 4→8→6人)



人間関係づくり～能都中わくわくトーク～の様子

MEMO

(2) 確かな学力の育成		具体的な取り組み					
①基礎的・基本的の定着 ・学ぶ楽しさを体得できる学習活動の工夫 ・学校研究の推進 ②学習習慣の定着 ・曜日ごとに教科の課題を決めて宿題を出す。 ③ICTを活用した授業改善 ・計画的な校内GIGA研修の実施 ・授業での効果的な活用方法を共有		・興味・関心に基づいて学習内容や方法を生徒が選択する ・生徒の様子、変容を視点とした研究授業の実施 ・グループワークやペア学習を通して、生徒同士が協力して学ぶ機会を増やす ・生徒一人一台端末を積極的に活用 ・積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。					
質問内容		R7最終		R7中間		R6最終	
教職員	⑧ 各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	A	91.7%	B	81.8%	A	100.0%
	⑨ 授業で、インプットさせる内容を明確にしている。	A	100.0%	A	100.0%	-	-
	⑩ 授業で、インプットさせるための手立てを工夫している。	A	100.0%	A	100.0%	-	-
	⑪ 生徒が授業でインプットすべき内容を身につけている。	B	76.9%	B	75.0%	-	-
	⑫ 生徒が授業で「求める内容」をアウトプットできている。	B	84.6%	A	91.7%	-	-
	⑬ 主体的・対話的で深い学びが実現されている。	C	61.5%	C	58.3%	B	75.0%
	⑭ 自然や日常生活、社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	A	100.0%	A	100.0%	A	100.0%
	⑮ 指導者としての意図をもって、授業で一人一台端末を活用している。	B	84.6%	A	91.7%	A	91.7%
	⑯ 体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科等横断的な学びとなるようにしている。	B	83.3%	A	90.9%	B	83.3%
	⑰ 授業の約束4か条を意識し、指導している。	A	100.0%	A	100.0%	A	100.0%
	⑱ 校内研修は指導法の工夫・改善に役立っている。	A	100.0%	A	91.7%	A	100.0%
⑲ 生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	B	83.3%	B	83.3%	A	91.7%	
生徒	A1 授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	A	86.4%	B	84.4%	A	88.7%
	A2 授業では、ペアや全体に対して伝えたり、発表したりする場面がある。	B	82.5%	B	74.3%	B	73.0%
	A3 授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	A	90.3%	A	89.0%	A	93.2%
	A4 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると思う。	A	90.3%	A	91.7%	A	98.8%
	A5 授業では、自分の考えを他の人に伝えたり、書いたりすることができると思う。	B	77.7%	B	80.7%	B	83.1%
	A6 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う。	B	84.5%	B	80.7%	B	82.0%
	A7 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	A	93.2%	A	92.7%	A	97.7%
保護者	⑥ 授業はわかりやすいと言っている。	C	57.6%	C	54.1%	B	80.8%
	⑩ 家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノー（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	D	24.2%	D	33.7%	D	21.2%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)						

家庭学習		30分以内	30分~1時間	1~2時間	2時間以上
生徒 B7	平日に1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。	32.0% 24.8% (24.7%)	42.7% 43.1% (41.6%)	16.5% 25.7% (25.8%)	8.7% 6.4% (7.9%)
保護者 ⑭	お子さんは、平日に1日あたりどれくらいの時間家庭学習をしていますか。	31.8% 20.5% (21.3%)	36.4% 48.2% (42.5%)	28.8% 30.1% (30.1%)	3.0% 1.2% (4.1%)

【考察・改善】

職員アンケート⑬では、中間評価に比べて微増したものの、他のアンケート項目に比べると低い結果となっている。授業が生徒にとって主体的・対話的なものとなり、その学びが深まっていくためには、授業で生徒が考えたくなる、友達に考えを話したくなるような問い（課題）やしかけが必要だと考える。そのような意識を持って授業に向かってもらうために、学校研究の取組では、2学期からは生徒の声や思考から授業がスタートするように教科書の音読やふり返りの交流、過去の課題に取り組むなどの時間を設定した。また3学期は生徒の授業に向かう姿勢・意欲・発話量を向上させるために生徒の学習意欲が高まるような導入の工夫をすることを意識して取り組んでいる。生徒自身が「知りたい」「確かめたい」と思える状況をつくっていくことが、主体的・対話的な学びにもつながっていくと考える。



保護者アンケート⑯では中間評価に引き続き、肯定的な回答が低迷している。安心して自分の考えを伝え意見を交わすこと、疑問を感じても質問できないなど、授業内で「わかった・できた」と生徒が実感できていないことが原因の一つと考えられる。また、授業の様子を実際に見に来ていただく機会も少なかったことも挙げられる。授業では、教師の説明が多く、生徒が学びたい、知りたいことを自ら調べたり話し合ったりする時間が少ないことも生徒にとっては「授業が楽しい」につながらずに、生徒を通して保護者にも授業について肯定的に取れられていないことが挙げられる。また、授業参観の機会が少なく生徒の学びの姿を保護者の方に直接見ていただくことも少なかったことも原因として挙げられる。来年度は、学期ごとに授業参観や学級懇談を設定し、PTA 総会等で生徒と共有した「授業スタイル」についても紹介したり、学級懇談では普段の授業の様子を直接担任から伝えたりする機会を入れていく。



保護者アンケート⑰については、継続的な課題となっている。学校での声掛けに加え、Tetoru等で各家庭に協力をお願いしていく。また、期間中に記録している「ファイト表」に、担任からのコメントを入れ、価値づけしていくことを行っていく。さらに、なぜ3ノーマーに取り組んでいるのかについても、生徒と共有していく。

MEMO

(3) 健康安全教育の推進		具体的な取り組み							
①安全教育の継続・発展 ・安全・安心な教育環境の構築のため、現状に即した訓練実施やマニュアルの見直しを行う。 ②望ましい生活習慣の確立 ・規則正しい生活習慣の重要性を生徒に周知し、実践につなげる。 ・情報モラル教育を定期的に行い、主体的に利用時間をコントロールできるようにする。		・教職員の危機管理意識を磨く。 ・実効性のある仕組みへと常に見直す。 ・現状に即した訓練実施 ・食育 ・給食指導 ・情報メディア教育							
		質問内容		R 7 最終		R 7 中間		R 6 最終	
教職員	⑤	危機管理意識をもって教育活動を行っている。	A	100.0%	A	92.3%	A	100.0%	
	⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	A	92.8%	A	92.3%	B	83.3%	
	⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	C	50.0%	B	76.9%	B	76.9%	
生徒	B6	携帯電話・スマートホンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	B	70.9%	B	75.2%	C	69.6%	
	C2	自分からあいさつをしている。	B	81.0%	-	-	-	-	
保護者	②	学校は生徒の安全を守るために努力している。	A	88.8%	A	86.7%	A	91.1%	
	⑧	お子さんは、毎日決まった時間に起床・就寝している。	C	69.7%	B	84.3%	-	-	
	⑨	お子さんは、携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っています。	D	45.5%	C	59.0%	D	46.8%	
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)							

テレビ、ゲーム、インターネット

() 内%は、R 6 最終

テレビ、ゲーム、インターネット (SNS、動画視聴等)		1時間以内	1~2時間	2~4時間	4時間以上
生徒 B9	平日に1日あたりどれくらいの時間、テレビやゲーム、インターネットをしますか。	7.8%	24.3%	38.9%	29.0%
		4.6% (20.2%)	29.4% (15.7%)	46.8% (40.5%)	19.3% (23.6%)
保護者 ⑮	お子さんは、平日に1日あたりどれくらいの時間、テレビやゲーム、インターネットをしますか。	7.6%	31.8%	45.5%	15.2%
		9.6% (10.7%)	31.3% (29.8%)	49.4% (53.2%)	9.6% (6.4%)

【考察・改善】

教職員アンケート⑤・⑥、保護者アンケート②の結果より、学校全体で「安全」に対する意識が高く、職員が危機管理意識をもって教育活動を行っていること、保護者の方からも評価していただいている。中間報告では、あらゆる場面を想定した訓練、生徒一人一人が自分事として危険を捉え、どう行動すべきかを考え安全に避難できる力を高められるような訓練を行っていくことを確認した。まずは、12月の火災想定避難訓練では、担任、教室、クラスのメンバーが異なる委員会活動中の訓練とした。訓練では、生徒や委員会担当の職員は、落ち着いて待機し、次の放送で出火場所や避難場所を確認してからすみやかに避難することができた。2月の地震想定避難訓練では、昼休み中の訓練を行った。また、防災用折りたたみヘルメットを着用した避難も実施した。今後も、生徒の命を守ることを最優先に、教職員一人ひとりがより高い危機管理意識をもって教育活動に取り組んでいく。そして、生徒自身が自らの安全を主

体的に守る力を身につけ、危険を察知して行動できるよう、引き続き指導と支援を充実させていく。



教職員アンケート⑦と生徒アンケートC2の結果は大きくズレがみられた。これは、生徒と教師側のあいさつの認識に差があるためであると考えられる。生徒にとっては、「ちゃんと声を出している」から挨拶できていると考えているが、教師側の挨拶は「相手を見て相手にしっかりと届く声」を求めているためだと考える。そのため、どのような挨拶がよい挨拶といえるのかを生徒に考えてもらったり、教師側が求めている挨拶を具体的に伝え、お互いの求める基準を共有したりしていくことが必要となる。また、生徒は教職員の姿勢や言動をよく見ているので、職員がまず、率先して模範を示すことや、職員同士でも積極的にあいさつすることを今以上に意識して心がけていく。

保護者アンケート⑮においては、継続的な課題となっている。そのため、生徒だけでなく保護者の方にも、学習会を開催し SNS 等への向き合い方について考える時間を設けたい。また、家庭でのルール作りをサポートすることや、学校・家庭で「こういう使い方を大切にしてほしい」との共通のメッセージを出すことで、生徒自身に“ルールを守る大切さ”に気づかせ、理解してもらおうきっかけとしていく。また、SNS 等の使い方などの情報リテラシーについては、来年度も計画的・継続的に指導を行っていく。

MEMO

(4) 信頼される学校づくり		具体的な取り組み									
①保護者との密な連絡 ・生徒の学習状況や生活面について直接話し合う場を設定し、より適切な指導に繋げる。 ・保護者への情報提供や連絡を円滑に行う。 ②積極的な情報発信 ・学校公開や日々の教育活動について1回以上、学校HPを更新する。 ・学校評価は焦点化した項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。		・個別面談や三者面談の実施 ・電話連絡や家庭訪問 ・tetoruでの連絡配信 ・HP担当を各学年に配置し、それぞれの学年の活動を配信する。 ・学校評価者委員会の開催 ・結果をHPや学校便りに掲載									
		質問内容				R7最終		R7中間		R6最終	
教職員	②	日常的に共通理解やコミュニケーションを図るようにしている。	A	100.0%	B	84.6%	A	100.0%			
	③	報告・協議事項は、全員に周知されている。	B	78.6%	B	77.0%	A	100.0%			
	⑤	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	B	78.6%	B	84.6%	A	92.3%			
生徒	B5	家の人と学校の出来事や将来のことについて話をする。	C	64.1%	C	67.0%	B	71.9%			
保護者	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	C	68.2%	A	85.5%	A	93.6%			
	⑪	家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	B	78.8%	B	79.5%	B	70.2%			
	⑫	教職員は、保護者との連携を密にしている。	B	72.7%	B	75.9%	B	80.9%			
	⑬	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは十分である。	C	69.7%	B	80.7%	B	83.0%			
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)									

【考察・改善】

生徒アンケート B5の結果については、R6の最終から低下してきている。生徒が家庭で学校生活や将来について話す機会を増やすため、授業や学級活動の中で家庭での会話につながる話題づくりを行い(職業人講話、修学旅行や様々な学校行事)家庭での親子の話題作りにつなげたい。また、生徒自身が家庭で話すことの意義を理解し、主体的に会話を広げられるよう、様々な体験活動の振り返りを大事にしていく。

保護者アンケート ④の結果より、保護者からの信頼低下を真摯に受け止め、学校としては、情報発信の充実と迅速・丁寧な対応を徹底する。具体的には、学校の方針や取り組み、トラブル発生時の対応状況をわかりやすく説明し、保護者が状況を正確に理解できるように努める。また、保護者からの相談や意見に対して誠実に向き合い、回答までの時間や対応の透明性を改善することで、学校の姿勢が確実に伝わるようにする。さらに、教職員間に対応方針を共有し、学校全体として一貫した対応を行うことで、保護者との信頼関係の再構築を図っていききたい。最終評価の結果は、2学期末の回答によるが、1月に保護者会を開催し、学校長より本校の現状を保護者の方に直接説明する時間を設けた。そこでは、学校としてのお願いや今後の方針を伝えた。また、保護者からの意見や質問を直接いただくこともできて、保護者との相互理解を深める貴重な場となった。今後は、定期的な学校公開や学期に1回の授業参観・学級懇談会を設定し、保護者の方との顔を見ての直接対話の機会を設け、誠実で透明性のある学校運営を進めることで、信頼関係の再構築を図っていく。



MEMO

(5) ふるさと教育の推進		具体的な取り組み									
①地域を活かした教育活動 ・体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科等横断的な学びを推進する。 ②地域行事に参加し、ふるさとに誇りをもたせる。 ・郷土愛の醸成を図る。		・地域の資源を生かした、海洋教育に取り組む。 ・地域人材や施設を活用する。 ・地域の祭りやイベントへの参加を積極的に促す。 ・地域の伝統を学ぶ体験を行う。									
		質問内容				R7 最終		R7 中間		R6 最終	
教師	②	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施(予定)している。				A	85.7%	C	61.5%	B	84.6%
生徒	B10	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。				B	71.8%	B	70.6%	C	69.7%
	B11	地域やふるさとについての学習に積極的に取り組んでいると思う。				B	72.8%	B	70.6%	-	-
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)									

【考察・改善】

教師アンケート、生徒アンケート共に、肯定的回答が増えてきている。3年生は4月25日に小木校舎にて伴旗作成の手伝いを行った。祭礼当日の乗船体験は雨で中止となったが、2月～3月には2年生が来年度の祭礼の伴旗作成に行く予定にしている。(2回実施)同じ能登町で行われる祭りの制作に携わることで、自分の地区の祭礼だけでなく、町全体の文化や歴史を実感できる。その経験は、郷土への愛着を育む大きなきっかけとなると考えている。また、制作の過程では、祭礼委員会の方々に教えていただきながら作業を進めるため、地域の人々とのつながりが深まり、ふるさとについての意識も高まると考える。



教師アンケート②の結果は、大きく増加した。これは、2学期、3学期と生徒たちが地域に出て活動する体験を確実に実施できたことと、生徒たちの実態に応じてさらなる活動を工夫できたことが要因として挙げられる。1、2年生は10月に、日本海倶楽部ザ・ファームさんのご厚意により、さつまいもの収穫体験をさせていただいた。収穫後は、お土産としていただいたさつまいもを使い、調理実習で「大学いも」を作って味わった。生徒たちは作った「大学いも」を職員にもおすそわけし、職員から「ありがとう。おいしかったよ」と声をかけてもらい、とても満足そうな表情を見せていた。



また、2・3年生はペットボトルの制作に取り組んでいる。完成したペットボトルにはメッセージやイラストを添え、学校周辺や仮設住宅に設置していく予定である。設置場所については、安全面に十分配慮しながら、生徒たち自身がふさわしい場所を考えることとしている。このように、一つの活動を収穫・調理・交流、あるいは制作・交流・設置へと広げていくことで、生徒たちの充実感や達成感が高まる。また、周囲から感謝される経験を積み重ねることで、自己肯定感や自己有用感の育成にもつながると考える。様々な活動をさらに広げ、地域の人々や職員から「ありがとう」と声をかけてもらえるような“感謝される経験”を重ねていくことが、生徒たちの成長にとって大きな意味を持つ。ふるさとへの誇りと愛着を深めることができると考えている。

